今年も気仙川でサクラマスが産卵した

地元の川のサクラマスの産卵遡上をみんなで見に行った。

めぐみ豊かな気仙川と広田湾を守る地域住民の会　山下裕一

こんなに興味深い自然の営みがある

私たち「めぐみ豊かな気仙川と広田湾を守る地域住民の会」は、郷土の恵まれた自然環境を子孫へ受け渡したいという思いから、気仙川水系大股川に計画されている津付（つづき）ダム建設に対して、環境、治水の両面から問題提起をしています。2002年から学習会、現地調査、意見、提言、要請等を重ねてきました。

サクラマスについては、県の環境調査で生息が確認されなかったことに対し、地元育ちの当会世話人代表の吉田正洋が「大股川の方が気仙本流よりも多くマスがのぼる」と異論を唱えたのが始まりです。

↑　サクラマス観察会の様子。サクラマスを初めて見たという方が多かった。（写真：八幡つぐ子）

2005年にはサクラマス産卵床の調査を行い県に報告しました。その後もサクラマスが産卵場所として利用している区間を把握してきました。

調査の過程で、サクラマスが意外に簡単にみられ、且つ岩手県内では他の河川よりも見やすいことが分かりました。遡上数もこの規模の川としてはかなり多い方だと分かってきました。しかも大股川ではヤマメの放流も行われていないので、遡上してくるサクラマスはここで生まれ育った魚と考えて良さそうです（気仙川本流ではヤマメの放流をしています）。天然のサクラマスが減少していると言われる今日、貴重な存在なのではと思うようになりました。

津付ダムが完成してしまえば、大股川のサクラマスは消滅するかも知れません。きわどい情勢の中で今回「サクラマス観察会」を企画しました。地元にこんなに興味深い自然の営みがあることを、多くの人に知ってもらえればと思いました。

気仙川サクラマスの観察記録

サクラマスは気仙川本流の中流域にあたる住田町世田米から、上流の上有住（かみありすみ）までの約14㎞の区間と、支流の大股川で多く見られます。本流では河口から約36㎞のところにある堰堤まで遡上します。大股川は本流との合流点から約4㎞の所にある堰堤で遡上できなくなるのですが、この短い区間に多くのサクラマスがのぼります。

今年最初にサクラマスを見たのは9月15日で、場所は『フライの雑誌』86号「釣り場時評」に掲載されている『葉山めがね橋』です。35～40㎝ぐらいのサクラマスとしては小ぶりの魚が2尾いました。さらに上流の別の淵にも2尾、同じぐらいのサイズの魚でした。

9月28日には3ヶ所の淵で計9尾を確認しました。近所の人がアユの様子を見に来ていて、「昨日はカラフトマスのオスがいた。」と言っていました。近所の人もマスはけっこう気になるのです。10月2日に一雨降って刺激になったのか、10月7日には吉田より2ヶ所の淵で計40尾以上のサクラマスを見てきたとの情報がありました。

「まだ魚はいっから。のぼってくっから」

10月12日には本流のあちこちで産卵床を掘るサクラマスの姿が見られました。ほとんどのサクラマスにヤマメがつきまとっていて、産卵盛期と見ました。50㎝をこえる大物ばかりでした。7ヶ所の淵と瀬で、計24尾のサクラマスが見られましたが、これは実際に遡上している魚のごくごく一部だと思います。吉田によれば「まだ魚はいっから、まだのぼってくっから。」とのことでした。

10月18日の観察会当日は素晴らしい秋晴れで、この日も各地で産卵が見られました。本流3ヶ所と大股川1ヶ所で20尾以上のサクラマスを見ることが出来ました。産卵床を掘るときには、体側が陽光をぎらぎらと反射させ、美しい朱紫の斑紋を見せるのですが、一週間以上こんな光景がこの川で続いていたのかと思うと、東北の川の良さというのを改めて感じます。

10月26日、台風20号の影響で40㎜の降雨がありました。27日にはにごりが残って水量も多めでしたが、川底の石は見えていました。しかし淵に瀬にも、どこにもマスの姿は見えませんでした。紅葉は進んで、山の上はもう葉がなくなり始めていました。サクラマスの季節は終わったんだなと思いました。

淵をジャンプするサクラマス

県内外から計16名の参加があり、吉田と私で案内役を務めました。北里大学水産学部の学生も来てくれました。ほとんどの参加者がサクラマスを見るのが初めて。産卵床を掘る様子を最初から見ることができました。

↑　「葉山めがね橋」から見えるサクラマスの群れ。（写真：山下裕一）

気仙川本流の「かきのそで橋」付近には、大きな淵とそれに続く平瀬に毎年サクラマスの産卵床がたくさん出来ます。河口からの距離は約22㎞です。この日は20尾ちかくいたようです。淵を続けざまにジャンプする魚もいるほどで、まだまだ活性が高いと感じました。通りがかりのおばあさんは「マスなら十はいだな」とさりげなく言葉を残して橋を渡っていきました。

支流の大股川の川幅はぐっと狭くなります。両岸を樹木が覆うので、川は日陰になってひんやりしています。上流は人家も少なく、川の水はよく澄んでいます。大股川では間近にサクラマスを観察することができました。サクラマスは人影に警戒して一度は上流へと泳ぎ去ったのですが、しばらくするとまたゆっくりと自分の掘った産卵床に戻ってきました。産卵床も私達の目の前にあったので、どんな作りをしているのかをよく見られました。

参加してくれた釣り人から「こんなに川と魚をじっくり見たのははじめてです。」との感想がありました。また、関西出身の大学生が「念願のサクラマスを見ることができた。」とうれしそうに感想を語ってくれたので、主催者側としてもうれしくなりました。

「何みてんだ」「マス見てんのす」

午後は下有住基幹集落センター付近で歩きながらサクラマスを探しました。少し歩くと深くはないが広く大きな淵があって、その最下流にサクラマスがいました。もう産卵を終えているのか、魚体は黒く沈んで見えました。

国道沿いだったのですが、大勢で川を見ていたので、通り掛かりの車が次々に車を止めて「何みてんだ。」と話しかけてきました。「マス見てんのす。」と返せば、なんだマスかという顔をしながらも、しばらくいっしょに見ていくのでした。最後に、吉田が「みんなに見てもらえていがったぁ。」と、笑顔で観察会を終えました。

今回は乗用車でサクラマスが良く見られる場所をまわるという形にしたが、出来れば長靴などで川の中を歩いて魚を探す方が、川により親しめるのではないかと思いました。来年もこのサクラマス観察会を開催することを約束しました。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

※第86号の訂正：50頁「釣り場時評」に、「（眼鏡橋は）サクラマスが見られるといいうことで観光名所にもなっているらしい。」とありますが、山下さんによると「めがね橋は観光名所だが、残念な事にサクラマスを目にとめる人はほとんどいない。」のが実状だとのことです。（編集部）